

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	総務文教常任委員会		会議場所 全員協議会室 担当職員 井上
日 時	令和2年9月25日(金曜日)	開 議 閉 議	午前11時00分 午後 4時15分
出席委員	◎山本 ○松山 三上 浅田 木村 福井 木曾 石野 (齊藤議長)		
執行機関 出席者	桂川市長、田中生涯学習部長、小塩文化国際課長、三宅生涯スポーツ課長、 服部文化国際課文化国際係長、岡田文化国際課主幹、岩崎生涯スポーツ課副課長		
事務局	山内事務局長、井上事務局次長		
傍聴	可	市民 2名 報道関係者 2名	議員 10名 (奥野、平本、小川、富谷、並河、長澤、 竹田、西口、大塚、三宅)

会 議 の 概 要

11:00

1 開議

2 事務局日程説明

11:01

3 議案審査

<山本委員長>

9月11日の議案審査で持ち越しとなった文化振興経費と京都スタジアム関連事業経費について、再度、所管部の説明を求め質疑を行う。先に質問事項を出しているの、市長、課長からの説明の後、質疑を行う

(生涯学習部 入室)

11:01～

【生涯学習部】

(1) 第1号議案 令和2年度亀岡市一般会計補正予算(第5号)

(文化振興経費)

<市長>

SDGs 未来都市モデル事業について、初めに私から説明させていただきたい。かめおか霧の芸術祭については、この間、総務文教常任委員会でも議会全体でも、全体像が見えない、わかりづらいという話があった。市民認知度、市民説明の在り方についてもまだまだ不足しているのではないかと指摘をいただいたところである。それを受けてわかりやすい事業説明を含めて、説明を尽くしていかなければならないと思っている。このように議会からいろいろと指摘をいただく中で、説明させていただく機会により熟度が高まってきていると思っている。私が市長就任以来、亀岡市の中にいる芸術家、または、クリエイターと称するような感性豊かな方々と直接面談を重ね、そういう人たちが亀岡のまちをどのように見、感じているかをリサーチしてきた。これまでは、行政と芸術家との直接的な取組は少なかった。市美展においては、長い歴

史を重ねてきたが、その他については連携がなかった。調べていくと市内には多くのクリエイターがおられる。京都市立芸術大学や嵯峨美術大学、京都芸術大学出身の方や先生方が亀岡に居住したり、アトリエを持っておられるにも関わらず、行政として連携し、生かすことができていなかった。亀岡の文化度を高めていくために、そういう方々の力を借り、アドバイスをいただくような取組を始めた。その1つが、かめおか霧の芸術祭だと思っている。著名な作家の作品を集めて展示する一般的な芸術祭ではなく、地元根差した、手作りの、参加型の芸術祭の取組である。いろいろな芸術家やアーティスト、クリエイターがそこに集まって、亀岡の課題解決のためのアドバイスをもらったり、新たな未来像を描いたりする取組を進めてきた。その中で、国において、持続可能な開発目標であるSDGs未来都市の公募が行われ、全国の自治体に案内があり、仲山前副市長、石野副市長とともに議論し、かめおか霧の芸術祭を持続可能性を生み出すイノベーションハブの位置づけで応募することを決め、取り組んできた。事前報告がなかったという指摘を受けて申し訳なく思っているが、ハードルの高い事業であり、採択を受けられるかわからないということもあった。結果としては、今年度の全国33自治体の中に入り、その中でも特出した取組として10の補助金付きの自治体に選んでいただいたのが、今回のSDGs未来都市モデル事業である。国からの3,000万円の補助金は、ソフト事業の啓発事業に2,000万円、10分の10、ハード事業に対しては2分の1、1,000万円が付いた。次年度に繰越ができない事業として、今年度中に執行することを前提とした交付金を受けたということで、今議会に提案させていただいている。SDGs未来都市モデル事業については、かめおか霧の芸術祭×Xということで取り組んでいくが、第5次亀岡市総合計画の中にSDGsへの取組を各所管の中で位置づけて、持続可能なまちづくりを進めていくことを前提に取り組んでいる。その中の1つのモデル事業にかめおか霧の芸術祭が当たっているということである。モデル事業の費用は、今年1年限りであり、SDGs未来都市と認定されても来年度からは予算が付くということはない。今年、7月11日に認定されたことをきっかけに、1年限りの予算として3,000万円の予算がもらえることになったということであり、それを具現化していくにあたり、文化国際課からいくつか提案を出してもらい、SDGs未来都市を運営していくための庁内組織を設置し、議論してきた結果、市役所地下レストランを拠点施設として整備しようということになった。なぜ市役所か。1つは、この予算を執行するにあたり来年3月末までに完成させざるを得ないということがあり、新たな物を取って何かを作ることには大変難しい。既存の公共施設の中でどういうことができるか。ギャラリーかめおかもその1つであるが、コロナで今は少し落ち込んでいるが、これまで大変利用者が増えている状況にあった。その他、若木の家、森のステーションも候補が上がったが、精査する中で、市民が一番来やすく、利用しやすい拠点を作るためには、庁舎の中では一番利用頻度の低い地下レストランを活用していこうという方向性を出した。今、お昼の時間帯に、事業者のレストラン運営をしていただいているが、3時間余りの利用で終わっており、土、日曜日にも開いていない。市民が夕方来られてもレストランでお茶を飲むこともできないという状況があり、施設の有効活用を含めて、市民の利用に供するために、開かれたアトリエ的な空間を提供することが今回の拠点整備の大きな目標である。市民が土、日曜日にも市役所の地下1階に行けば会議ができたり、Wi-Fi整備も予定しているので、コロナ時代のリモートを含めた取組ができると考えている。ギャラリーかめおかで言えば、学生が自由に勉強できる市民サロンのようなイメージの、もう少しクリエイティブな環境が整った場所である。イメージ図を資料として出しているのので後で説明させていただく。レストランが営業していない時にもお

茶が飲めるよう、ワンコインで飲めるサーバーを設置することは、レストラン事業者にやっていただこうと思っている。お弁当を持ち込んで食べることもできるような、自由な空間を設置したいと考えている。市民の交流が生まれ、そこから新しいものが生まれてくるような取組につなげていきたい。かめおか霧の芸術祭の幹事会を設けているが、会議もそこでできるような空間を作っていこうという取組を、具体的にかめおか霧の芸術祭の中で進めている。行政にはそれだけの知識、技術、創造性がないため、かめおか霧の芸術祭に関わるクリエイターに協力いただくとともに、京都芸術大学と連携を図り進めていきたいと考えている。京都芸術大学とは、今後、事業を円滑に、より高度にできるよう、協定を結ぶ準備を進めている。レストラン事業者との関係は後で説明させていただくが、理解いただいております、保健所にも理解いただき、許可もいただける状況になっている。質問項目⑩霧の芸術祭をリーディング事業とするならどのような展開にするのかということであるが、亀岡の一番弱い部分はシティプロモーションであるということは、議会からも指摘があり、発信力をつけていかなければならないと言われていた。霧の芸術祭がリーディング事業ということは、9月議会で私の言葉として発信させていただいたが、亀岡を発信する拠点が霧の芸術祭であり、シティプロモーションを積極的に進めていく1つの方法と考えている。霧の芸術祭自体は、いろいろな課題とコラボレーションする中で、農業、観光、環境と今、コラボしているが、今後、あらゆるところでコラボを広げていきたいと考えている。霧の芸術祭は何かと言えば、人材バンクだと思っている。クリエイターのプラットフォームがそこにあり、そこには芸術家やアーティスト、クリエイターが集まり、そこに行政側からいろいろな課題を投げかけることによって、その方々が考える課題解決を提示していただき、それを行政の各部署が具現化していくことにつながっていくと思っている。霧の芸術祭は1つの人材バンクであり、行政マンが持っていない感性を持つクリエイターの力を借りて、亀岡の魅力を高めていくような新たな取組につなげていく。かめおか霧の芸術祭×Xは、持続可能性を生み出すイノベーションハブと言っているが、イノベーションとは新たなものを生み出し、創造、改革していくことであり、拠点、ハブとなるのがこの霧の芸術祭であり、地下1階レストランに人が集まる新たな拠点施設を作ることを、今回議会に提案させていただいている。議会からはわかりづらいという意見をいただいているが、こうして議論することにより、担当課も内容を深めて市の施策につなげていくことができていると思っている。SDGs未来都市及びかめおか霧の芸術祭については、私から総論的、一部は部分的な話をさせていただいたが、詳しくは担当部から説明させるのでよろしく願います。

11 : 21

<文化国際課長>

質問いただいた項目を説明させていただきます。

①自治体SDGsの執行体制はということであるが、資料の亀岡市SDGs推進本部設置要綱をご覧ください。SDGsの目標達成に向けた取組を効果的に推進するために、市長を本部長として、部長会議構成員で組織する亀岡市SDGs推進本部を設置した。庁内横断的な執行体制となる推進本部において、情報共有や進捗管理を図りながら、全庁的に自治体SDGsを推進している。事務局は、企画管理部企画調整課が行っている。また、SDGs未来都市計画に掲げるモデル事業を実施するにあたり、推進本部の中に事業所管課長で構成するSDGs未来都市推進幹事会を設け、事業内容について協議を行っている。幹事会メンバーは、裏面に掲載している5課である。

②SDGs未来都市モデル事業予算の内訳は、資料をご覧ください。庁舎維持管

理経費と電算管理経費は、総務課所管の予算になる。いずれも開かれたアトリエ整備に係る工事、Wi-Fi整備経費である。文化振興経費2,600万円であるが、報償費、普通旅費、需用費の内容は、SDGsアドバイザー、シンポジウム講師謝金等である。業務委託料2,300万円のうち、1,480万円は、かめおか霧の芸術祭実行委員会にSDGsの普及啓発事業を委託するものである。計画策定リサーチ業務220万円は、モデル事業を推進するためにハブとなるかめおか霧の芸術祭の今後の事業計画を策定することが大切だと考え、市民の意見や他の芸術祭の状況などをリサーチし取りまとめる業務を、一般社団法人きりぶえに委託したいと考えている。全体マネジメント・普及啓発等経費2,000万円は、全て地方創生支援事業費補助金を充当し、補助率は10分の10である。開かれたアトリエ整備経費も2,000万円であるが、財源内訳は、補助率2分の1の地方創生支援事業費補助金、残りはふるさと力向上基金繰入金を充当する。

③SDGs未来都市モデル事業の交付金がなくなれば、来年はどうするのかということであるが、本年度当初予算と同じく、地域創造助成金、ふるさと力向上基金繰入金を財源として実施していきたいと考えている。

④モデル事業の拠点をなぜ市役所地下レストランに整備するのかについては、先ほど市長から詳しく説明いただいたが、誰もが自由に入れ、打ち合わせや会議などに利用でき、多くの市民に利用していただけるスペースを市役所内に作り、市役所の利用の多様性を実現したいと考えている。また、現在地下レストランは、昼食時のみ利用され、利用者が少ない状況である。市役所庁舎内の有効活用を図りたいと考えている。

⑤開かれたアトリエのレイアウトイメージ、エリアごとの趣旨と活用方法については、資料をご覧ください。中央のコワーキングスペースは、最近とても増えているもので、英語の造語であり、コは一緒にという意味である。直訳すると、一緒に仕事をする場所になる。会議や打ち合わせをする場所を、コワーキングスペースと呼んでいる。ランチ時の客席利用やカフェ利用とフレキシブルに活用する多目的なスペースとして、レイアウト変更によっては10人、15人程度の会議もできるようなスペースにしたいと考えている。その周辺には、いろいろなスペースを考えている。右側は子ども&フリースペースと書いている。子ども連れで来られても打ち合わせなどができるスペースが必要だと思っている。右下には本棚スペース、真ん中の下には鑑賞スペースということで、屋外も含めていろいろな展示をしていきたいと思っている。左下は販売スペースということで、亀岡プロダクトの販売、そして、市の事業の広報ができるスペースを考えている。こちらには地上からのアプローチということで、駐車場からの入り口もある。将来的には、外でマルシェをし、連携したいと考えている。その上のアップサイクルスタンドは、エコの拠点となる場所を提供したいと考えている。左上の野菜販売スペースは、今、農林振興課とともにやおやおやという対面式の屋台を使った野菜販売の事業を行っているが、それも活用し野菜販売をしたいと考えている。これは、幹事会を中心に話し合っている内容である。この後、市民を交えたワークショップを計画しているので、これを土台によりよいスペースになり、より多くの市民に利用していただける場所となるように考えていきたい。

⑥開かれたアトリエの事業効果は、市民のためになるのかについては、今、レイアウト図で説明したように多様性のある場所を考えている。市民誰もが自由に使用できる場所を想定しており、このことが最大の事業効果であり、市民のためになる事業と考えている。

⑦レストラン事業者との契約はどうなるのかについては、現在、亀岡市庁舎管理規定に基づき、事業者からの行政財産目的外使用申請により、レストラン使用という条件を

付して目的外使用を許可している。今回、レストランの一部の利用形態を変更し、レストラン事業者には厨房部分のみを占有いただくということで、来年度から契約内容を変更したいと考えている。

⑧保健所の許可がおりるのかについては、保健所に相談し、新たな許可は必要ないと確認している。

⑨食事ができる場所で事故が起きた場合、責任はどうなるのかについては、庁舎管理上、施設の瑕疵による事故が起こった場合は、市が責任を負うことになる。しかし、目的外使用など、市以外の使用者が運営し、その運営による過失で事故が起こった場合は、当該使用者において責任を負うことになると考えている。

⑩霧の芸術祭をリーディング事業とするならどのように展開するのかについては、先ほど市長から答弁があったとおりである。

⑪霧の芸術祭にどこまで市の中核を担わせるつもりかについても、市長答弁のとおりである。

⑫各部署にまだまだ関連事業を増やすのかについても、市長答弁の内容であるが、SDGs 未来都市モデル事業は、かめおか霧の芸術祭×X～持続可能性を生み出すイノベーションハブ～というタイトルになっている。Xには、様々な事業が入ると考えている。かめおか霧の芸術祭がハブとなって、様々なXと関連して事業を行うことで、様々なイノベーションを起こして亀岡市をより魅力的なまちにする。そのような内容自体がモデル事業として選定されている。そのため、今後、市の施策として、かめおか霧の芸術祭と連携して実施した方が効果的であるという事業については、モデル事業として取り組んでいきたいと考えている。

⑬そうであればこのままの体制ではとても行えないのではないかということについては、霧の芸術祭のスタッフの関連とお聞きしている。スタッフは、事業内容に応じて新たな人材も登用し、実施していきたいと考えている。

11 : 35

《質疑》

＜福井委員＞

市長にも説明いただき、8割方すっきりした。①SDGs 執行体制は、生涯学習部が事務局だと思って心配していたが、企画管理部だと聞いて安心した。③来年はどうかということについては、国の交付金がなくなる。開かれたアトリエはできるが、霧の芸術祭の運営をどうするつもりなのか。

＜文化国際課長＞

今回の予算の4,000万円のうち、2,000万円は開かれたアトリエの整備経費である。残りの2,000万円のうち、400万円近くはSDGs アドバイザーや研修などに使う。霧の芸術祭実行委員会には、1,480万円の業務委託料を支払うが、通常業務ではなく、SDGs を啓発する特別の業務と考えている。引き続いて実施していくものもあるが、基本的には今年度も当初予算で認めていただいた予算で、来年度も進めていきたいと考えている。

＜福井委員＞

議会は、決算において附帯決議を出し、予算を増やさないと意見を付している。今回はSDGs が増えているが、来年度以降は予算を増やさなくても運営していけるのか。

＜市長＞

議会からは、予算をなるべく減らしていくようにと指摘いただいている。そのことを十分承知する中で、取り組んでいきたいと思っている。国の補助事業は、今回も10

分の10と2分の1であるが、状況が変わっていく。今後も補助事業を上手く活用したい。その時は、議会に説明し、承認いただきたいと思っている。単費で新たな事業をやることはない。

<福井委員>

レストラン整備のイメージはよくわかった。⑤趣旨と活用方法は、時間帯で2時までは食事、2時から5時までは多目的に使えるというようなことは考えているのか。

<市長>

なるべく市民の利用に供するために、夜9時、10時まで、土、日曜日にも使えるようにしたいと考えている。庁舎管理上のことがあるので、詳しい時間を今言うことはできないが、夕方からの利用、土、日曜日の利用もできるようにし、市民にリモート学習、意見交換などに使っていただきたいと考えている。

<福井委員>

市長からも説明いただき、これくらい資料を出してもらえばある程度理解できる。日本一になった事業で、交付金も取ってこられて素晴らしいが、横文字が多すぎる。コワーキングスペースと言われても、高齢者は入りにくいのではないか。

<市長>

高齢者への配慮はしていきたい。この場所を使った高齢者や子育て世帯に対する事業も考えていきたいと思っている。横文字が多くわかりづらいところは、今後、わかりやすく、日本語で表示できるところはしていきたい。クリエイターが多いので、新しい言葉がどんどん出てくる。先日の土曜日に幹事会に出席し、仲山前副市長にも来てもらい関係者と意見交換をしたが、新しい言葉がたくさん出てくるので苦慮するところはある。なるべくわかりやすく伝えるようにしていきたい。

<福井委員>

ぜひお願いします。霧の芸術祭は素晴らしいとだんだんわかってきた。仲山前副市長がSDGs未来都市モデル事業のイノベーションハブとして作り込み、国に認められて、交付金も取ってきた。それは素晴らしいが、市長、仲山前副市長のレベル、仲山前副市長が育てた若手職員のレベルと、真ん中の世代が開いているような気がする。今後、議論を含めて、埋める努力をしてほしい。

<市長>

おっしゃるとおりで、市民の方も同じだと思っている。今回、再度委員会で質疑いただくということは、事務方もそれに対して試行錯誤し、仲山前副市長や私たちが考えていたことと現場との擦り合わせを自分たちで考えてくれている。よい機会を与えていただいたと思っており、議会の議論を通じて、市民にもわかりやすい取組につなげていきたい。

<木曾委員>

先ほどから説明いただき理解が進んだところもあるが、霧の芸術祭とSDGsについて、市民がどこまで理解しているかということについては、まだ至っていないと思う。この事業がどのようなものを理解してもらわないと、予算を理解してもらえないと思う。霧の芸術祭は3年目になるが、これからリーディング事業にしていくためには、市民啓発、事業内容の周知徹底をしていく必要があると思うがどうか。

<市長>

おっしゃるとおり、市民に事業内容を理解いただくまでには至っていないと思っている。市として、この事業の情報発信がまだまだ足りないと感じている。先日、市美展が行われた。同じく生涯学習部が行っているが、市美展と霧の芸術祭との連携も取れていない。市美展の時に、霧の芸術祭についても紹介するような取組が必要ではない

かと担当課に伝え、来年度から連携して取り組むよう指示した。クリエイターと言われるイノベーションを起こす人たちが集まってきつつあり、かなり形ができてきた。これからが市民に対していろいろなアプローチをしていく時だと思っている。今回、SDGs 未来都市モデル事業としての予算をいただいたので、この予算を活用してしっかり市民に情報を届け、市民に参加していただけるような事業を進めていきたい。

<木曾委員>

まず下地を作り、浸透させて、それから構想や計画を練り、そして一定の予算を立て、それを市民に理解いただいて、いろいろと展開していくということであれば分かったが、市民が理解できないままに、一気に国に認められた事業になってしまった。理解のレベルが高すぎて浸透していないので、上手くいかない部分が透けて見え、不安がある。素晴らしい事業を完結するためには、そこをクリアしなければ難しいのではないか。SDGsは17項目に渡るといえることは、市の施策全てに至る。全ての部署で、SDGsの視点で議論されているのか。SDGsの視点でどうかと聞いても、答えが返ってこないことが気になる。発信することも大事であるが、市職員に対しても浸透させていかなければ、第5次亀岡市総合計画の中の各項目に盛り込まれると思うので、市職員の理解度がなければ発信力はない。市長や担当部がいくら声高に言っても、本当の素晴らしさが生きていかないとと思うがどうか。

<市長>

SDGsが言われ始めてまだ日が浅いと認識している。私が市長に就任した平成27年11月時点で、まだ表に出てきていなかったもので、第4次亀岡市総合計画後期基本計画の中にも盛り込めていない。昨年くらいから、SDGs持続可能なまちづくりを行政として進めることが必要だということから、第5次亀岡市総合計画の中に盛り込み、各部署でどのような位置づけになるのかということを示し、今後具体的に読み込んでいくことにつながるとしている。市民も、SDGsと言われても横文字で何のことかわからないというのが正直なところだと思う。そういうところから啓発していく必要があると思っている。もう1つは、行政も既存の広報やSNSを使った発信をしているが、それだけでは市民理解を得るのは難しいのが現状である。いろいろな事業を実施しているが、周知するのは大変難しい。そういう面で、霧の芸術祭も含めてどのような形でプロモーションし、発信するか。外へ発信したことが内に返ってくることは、亀岡の場合は多々ある。歴史を見れば、石田梅岩も円山応挙も、外が評価をして初めてこれは大切なものだということでも顕彰会ができて、取組が進んできている。そういう面では浸透するまでに少し時間がかかるであろうが、税金を使うのであれば、市民の理解を高め、理解の元で議会として承認していく必要があるということは、そのとおりでと思っている。しっかりと努力していきたい。

<木曾委員>

この事業に単費は入れないと言われたので、安心だと思っているが、国からの補助金であっても税金は税金であり、有効に活用していかなければならない。SDGs、霧の芸術祭を全面に押し出しながらやるが、ここには見えなくても、各所管のいろいろな分野に霧の芸術祭が関わる内容が入り込んでいくのではないかと心配である。実際に見えることについては、説明されるが、我々が予算や決算審査をする時に、何を基準に審査するかが明確にならないのではないかと。予算について、全体に既存の分を押し込んで霧の芸術祭の分が広がっていくということになるのであれば、事業全体をゼロベースで見直していかなければできないのではないかと。

<市長>

ご心配の点はよく分かる。市としては、第5次亀岡市総合計画があり、その下でSD

G s 持続可能なまちづくりの目標を掲げて取り組んでいく。その1つに霧の芸術祭がある。霧の芸術祭は、人材バンクである。イノベーションハブとなり人がそこに集まる。レジ袋提供禁止のポスターを作ったが、霧の芸術祭にポスターのデザインを依頼し、返ってきたものを所管がポスターに仕上げた。教育委員会が、夏に芸術に関わる事業をする時に、霧の芸術祭に依頼し、そこにある人材に協力いただき、現場で指導していただいた。霧の芸術祭を生かしてつなげていくということは、職員だけではノウハウもない、感性もないけれども、霧の芸術祭に依頼することにより、今まで行政が作っていた簡単なチラシよりも、クリエイティブでこのまちに合ったものを考案していただける。それが霧の芸術祭の役割だと考えている。霧の芸術祭の自主事業、独自の展覧会ややおやおやのようなものを広げていくというよりも、霧の芸術祭に集まる人たちのノウハウを各所管のところに上手く利用し、知識や技術をもらって亀岡の文化度の全体的なレベルを上げていきたいと思っている。特に、SDG s 未来都市の中で言われるような取組や、SDG s を進めていくために必要な取組を、霧の芸術祭からいろいろなアドバイスをいただいて、より魅力的なものに変えていくことができると思っている。予算を広げるといっても、そういう事業のために、霧の芸術祭に集まる人たちを活用していくことが必要だと思っているので、予算を広げていかないというのはそういうことであり、ノウハウを上手く使いながら、全体的なSDG s の魅力を高めていく取組につなげていきたい。

<木曾委員>

ほぼ見えてきたが、霧の芸術祭が単独で行う事業については、これ以上は広げないということ、霧の芸術祭は人材バンクとして活用し、他のところに発信するということが明確に市長から発信していただかないと、今、初めて聞いて、そういう意味で広げるといえることを理解した。霧の芸術祭が、環境や教育やいろいろなことに関わっていくのであれば、それは違うと思う。事業の一部で、専門的な知識を持った人材を生かしていく。人材を発信できるところがリーディング事業だということも明確にしたい。そうすれば理解できると思う。どこまでがその事業なのかということになる。第5次亀岡市総合計画のそれぞれの所管の中で、実施する事業をしっかりと押さえながら、霧の芸術祭でやっていくことが理解できない限り、我々も審査が難しい。なぜ地下レストランなのかということは、まだすっきりしない。いろいろな発信をするのであれば、人権福祉センターでよいと思う。今まで、あれだけの素晴らしい施設を活用できていない。確かに、市役所が一番人が来るところかもしれない。その理屈ではなく、市民に啓発し、いろいろなことをやっていく拠点として、なぜ市役所なのかをもう一度説明してほしい。

<市長>

人権福祉センターは、素晴らしい施設であり、多様な空間を活用できると思うが、東部文化センター、保津文化センターも同じ位置づけにあると思っている。東部、西部、川東、それぞれの地域の拠点と位置付けているので、それが全部のものにはなりづらい。そこにアトリエを作ったとしても、市民全員が行けるかということ、いろいろな意味のハードルがある。市役所は、市内全域からハードルなく来ることができる場所であるということが1つある。2つ目に、市役所は市民の建物であり、議会のこの部屋も市民のものである。その中で、一番利用率が低いのが地下のレストランだということがわかってきた。800会議室は、昔は特別応接室で年2回くらいしか使えなかったが、今は協定締結、研修、1階職員が昼食を食べることに使ってもらえるようにした。年間を通じて利用が増えてきた。レストランは、職員だけでなく誰でも行ける。土、日曜日、また夕方からでも市民が無料で気兼ねなく行ける場所ということであれ

ば、駐車場も無料であり、利用面では利便性が図れ、人も集まりやすい環境にあると思っている。もう1つは、3月末までに全ての工事を終えなければならないので、調整ができる場所ということを含めて、タイムスケジュールも勘案し、市役所地下レストランにした。

<木曾委員>

課長の説明では、最初は厨房だけと考えているが、食事をする場所も必要だということになれば、スペースを分けするかもしれないと言われた。全体のコンセプトも含めて、今後いろいろな意見を聞きながら変えていくということになるのか。

<市長>

地下レストランは、一般店舗の部分と厨房部分がある。厨房部分は、これまでどおり事業者が占有していただき、厨房以外をオープンスペースにしていきたいと考えている。事業者との契約状況は変わってくる。提示したイメージ図は1つのモデルであり、市民に使ってもらいやすい環境をどのように作るかということが一番大事だと思っている。市民を交えたワークショップを今後2、3回開き、必要な機能や雰囲気などを議論し、最終的には、霧の芸術祭の中に、今後協定を結ぶ予定である京都芸術大学に建築の先生がおられるので、京都芸術大学に設計を委託し、整備を進めていこうと考えている。市民の意見を反映し、開かれたアトリエと言われるような、高齢者にとっても行きやすい空間作りに努めたいと考えている。

<木曾委員>

レストランで食事をする時、これまでは持ち込みはできなかったが、これからはお弁当や買って来たものなど、いろいろな持ち込みによって混在して食事をすることになる。今はコロナの関係もある。食中毒が出た場合のことを考えると、食べる場所は区切る必要があるのではないか。

<市長>

コロナに関しては、3密対策も含めて、飛散防止対策はやっていかなければならないと思っている。開かれたアトリエと位置付ける中で、飲食物の持ち込みはできるようにしたいと思っている。食中毒が出た場合は、保健所との協議の中でも、具体的にどこでどのようなものを買ったかということによって、その製品を作ったところに責任があり、場所ではないということである。その調査が入ることを前提としているので、出た場合の対策はしっかり取りながら、現状を把握していきたいと思っている。この場所には防犯カメラを設置する必要があると思っており、安全管理を含めて、対応を確認できるようにしていく。

<木曾委員>

レストランで食中毒が出た場合は、そこを閉鎖するということか。

<市長>

レストランが作った料理によって食中毒が出た場合は、厨房の使用は閉鎖することになるとしている。開かれたアトリエの部分については、閉鎖する必要はないと思っている。

<三上委員>

このイメージ図を見て、ガレリアかめおかのカフェ辺りのスペースがぴったりだと思った。開かれたスペースで、響ホール、コンベンションホール、図書館もあり、道の駅ともコラボできる。外のスペースも広く、駐車場もある。子ども連れで来られても、屋上にあそび場もできる。所管も生涯学習部である。市役所レストランは地下なので、閉ざされた感覚はどうしてもある。駐車場も満車になることがあり、心配である。いろいろな意味でガレリアかめおかがよいと思った。今、市役所レストランは、どのく

らの利用があるのか。

<文化国際課長>

直近3カ月平均は、1日当たり53名である。

<三上委員>

席が埋まるくらいか。それとも空いている感じか。

<文化国際課長>

椅子は168席あるが、今はコロナの関係で78席が使用できる。

<三上委員>

今回の整備により、食事ができる席はどれくらいになるのか。

<文化国際課長>

正式には決まっていないが、100席から150席は用意したいと思っている。現在利用されている方が困られることはない。

<三上委員>

社員食堂ではないが、職員の福利厚生にも寄与しているので、職員や職員団体の声もあるのではないかと考えた。市役所庁舎でない方がよい理由としては、ガレリアかめおかの方がふさわしいと思うことと、市役所庁舎の市民ニーズの観点から、1階の福祉部門には多くの方が相談に来られ、オープンスペースでは話せない内容もある。相談室は狭く、密になるので、ハンディキャップがある方の付き添いの方は一緒に入れない。30分経てば終わりと言われる。市民が相談できる部屋がもっと欲しいと思っている。そのようなニーズがあると思うが、市長はどのように判断されているのか。

<市長>

行政として、市民相談窓口はいくつか設けている。それぞれの部署に部屋を当初の設計では割り当てている。おっしゃるとおり、多くはないので、今後、相談できる空間をどのように作るかを考えていかなければならないが、現状としては、あるものをどう生かすかということになると考えている。事前予約いただければ、会議室で相談を受けることもできる。市民にとって相談しやすい体制作りは今後も考えていきたい。

<三上委員>

市役所の有効活用という点では、そういう視点を優先してもらいたい。ガレリアかめおかの方がふさわしいのではという点ではどうか。

<市長>

ガレリアかめおかは、もともと開かれた空間である。本棚をそこに設置できるか、売店を設けることができるか、情報発信することができるかという点と、管理体制の問題もあり、市役所地下レストランがよいのではないかと考えている。

<三上委員>

ガレリアかめおかには図書館があるので、図書館の一角をそういうコーナーにすることもできる。店舗もあるのでよいと思った。

<木村委員>

地下で全部をしなければいけないのか。市役所の8階も使い、ガレリアかめおかの図書館も使う。ガレリアかめおかは、多くのスペースがあり、人が来られ、駐車スペースもある。若い人だけでなく、年配の方も来られる。今後、大規模改修をされ、遊具も作られる。1つ、2つのスペースをガレリアかめおかに持って行き、市役所地下レストランを有効に使うという構想はないのか。

<市長>

ガレリアかめおかは、基本的に開かれた空間であり、誰でも行って使うことができる。多くの市民に利用いただいております、敢えてそこを指定する必要はないと考えている。

市民にとっては、ギャラリーかめおかもあり、市役所もあり、他にもあれば、使用の範囲は広がり利便性が高まる。残念ながら、市役所には、今、そのような空間がないので、そういうものを新たに作りたいと考えている。

<木村委員>

今も、駐車場は結構一杯になっている。このイメージ図の写真は、地下に合わせた写真ではない。全てのスペースが広く取ってあるが、地下ではできない。確かに市役所にはそういうスペースはないかもしれないが、8階は本棚スペースにすればどうか。地下で全てをしなければならないのか。カフェはワンコインと言われたが、市長は成人式でスターバックスの話をされ、新成人から歓声が上がっていた。カフェも充実したカフェにして、若い人にも来てもらうようにしてはどうか。最終目的は、市民に喜ばれる広場を作ることである。高齢者にとってもやさしい場所を作っていただきたい。霧の芸術祭に関していつも思うことは、芸術家の感覚と一般の人の感覚は少し違うということである。事業もコアな人がやっているように感じる。市民みんなに喜ばれるようなものができればよいと思う。京都芸術大学の先生が設計されてもよいとは思いますが、市民離れしたものができるのではないかと。費用対効果も高くつくのではないかとというイメージもある。地下レストランに固執するのは、事業として地下レストランに作らないといけないということなのか。

<市長>

8階は、職員通用口側のエレベーターか、議会の前を通過して7階から階段を使わなければならない。市民が簡単に行ける場所ではない。セキュリティの問題もある。地下レストランは、今もエレベーターで地下1階まで行けるようになっている。現状をより高めていくような形に進められると考えている。駐車場の問題があるが、B C o m eの駐車場も利用できる。京都芸術大学と協定を結ぶことにより、よりスムーズな設計を進めることができると思っている。その前に、市民とのワークショップで利用状況を確認し、必要性を確認してその内容から設計を依頼することになるので、市民の思いからかけ離れたものにはならないようにしていく。タイムスケジュール的に、議会が終わり、入札の手続きを踏んで10月から設計を発注し工事をやろうと思えば、設計だけでも3月には終わらないと思う。今年度中に全てを完結することが大前提であるので、タイムスケジュールも勘案して進めていきたい。

<浅田委員>

レストラン事業者との契約を変えるということであるが、後で苦情が出るようなことではもったいないと思う。上手く進められるのか。

<市長>

レストラン事業者からは、1日50人くらいでは採算が合わないのでは、賃借料を減免してほしいと依頼を受け、今年度減免している。レストランは、職員の福利厚生の意味合いもあるので必要である。事業者としては、地下レストランの運営は厳しいと聞いている。今回、占用面積を減らすということは、事業者にとっても使用料が下がるという利点があり、利用者が増えればレストラン事業の新たな展開が生まれてくるということで、事業者から前向きに協力すると聞いている。来年度からになるが、契約内容にもそのことを盛り込んでいきたいと思う。

<木曾委員>

地下レストランでやることについて、まだ納得できない。時間がないので、一番やりやすいところということが本音のように思うが、もう少し議論すべきだったのではないかと。日程的にないので仕方がないかもしれないが、補助金をもらったので執行しなければならないということと、時間的な余裕がないということが重なっているよ

うに思うがどうか。

<市長>

時間的余裕というのは、工事を進めていくための手法の中で、一般競争入札で設計者を決め、その後工事業者を決めるとなれば、5カ月余りでできるものではないと思う。タイムリミットがある中で進めるために、霧の芸術祭のコアな部分を活用し、もう1歩踏み込んで京都芸術大学と協定を結び、連携して進めていくということであり、場所の問題とは違うと思っている。レストランについては、市役所庁舎の中で一番利用率が低い。市民が入りやすいという利点を含めて考えた。ガレリアかめおかは、利用者が増えてきて、図書館も図書館の機能があり、これから作るあそび場もあそび場の機能がある。1つに集約するものではなく、全体で1つのものだと思っている。利用がないということではなく、十分市民の利用に供する空間としてガレリアかめおかは使っていただいているので、敢えて新たな投資をする必要はないと思っている。修繕はしなければならないが、新しく構築するような状況ではない。人権福祉センターは、別の事業で新しい取組を進めていければと考えている。行政としては、適材適所、この事業をどこでどうするか、全体を俯瞰し取り組んでいることをご理解いただきたい。

<三上委員>

ガレリアかめおかは多くの方に利用されているので、そこに敢えて持ってくる必要はないということであるが、逆に、人が多く集まるところだからこそ、霧の芸術祭がやっている循環型の、経済、社会、環境を1つにしていくという取組がモデル事業なので、市民がそれぞれ自分たちの置かれている現状でも、持続可能な循環型の環境にも人にもやさしいものを作っていかなければならない、それがSDGsである、そのモデル事業が霧の芸術祭であるということというのがわかるように、より見せられると思う。市長が言われたことは、逆に違うのではないかと思うがどうか。

<市長>

ガレリアかめおかは、ガレリアかめおかとしての機能を有しており、多様に利用できる空間ということで、生涯学習施設として利用されている。敢えてそこに持って行く必要はないと考えている。

<三上委員>

市役所は、市役所としての機能があり、多くの人が来られる。そこに持ってくる必要はない。

<松山副委員長>

開かれたアトリエのコワーキングスペースを作って、霧の芸術祭の方だけが集まって、他の市民が入りにくい空間にならないかと心配している。私もKIRI CAFEに行ったことがあり、私の知人も大阪や京都からKIRI CAFEへ行った。古民家を改修し、よい空間だと言っていたが、ワークショップをされており、開かれているとはいえ中のコミュニティだけで話し合っている空間というのが、一般の人には居づらい空気感を感じた。クリエイターの話は精度も高く、難しいことがあり、客として行っても疎外感を感じる。KIRI CAFEだけでなく、関東のコワーキングスペースでも、事業をしたい人が集まっているが、オフィスの一角を借りないとコミュニティに入っていけないという問題も数多く出ている。ここは誰でも来ることができるスペースであるが、空気づくりは大切だと思っている。KIRI CAFEもそうであるが、車椅子の方が食事をするにはテーブルが高いなど、ハンディキャップを持つ人は入っていけないところがある。公共施設の中に作るので、設計の段階で考えられるとは思いますが、入っていきやすい空間をどのように考えているのかを聞きたい。

<市長>

公共施設は、バリアフリー化が規定されている。今回作る場所ももちろんバリアフリーで、障がいがあっても入れる空間にしていかなければならないと思っている。テーブルの高さ等は、設計の中で配慮していく。コワーキングスペースが、雰囲気的に入りづらくなるのではないかということは、できてみないとわからないと思っている。KIRI CAFEは、芸術を中心とした、ギャラリーを含めたカフェとしての利用であり、いろいろな事業やミーティングをしているので、おっしゃるようなことはあると思うが、地下レストランは、より開かれた形に進めていかなければならないと思っている。そのような雰囲気をどう払拭できるかということは、今後、運営の中でしっかり考えていきたい。霧の芸術祭の方々がここで常に会議をするわけではない。夜に勉強したいという学生が来てもよい。高齢者の方々が昼食を食べながら交流されてもよい。多様な空間になればと期待している。そのようになるように努める。

<松山副委員長>

いつでもweb配信可能なスタジオスペースは、特定の方だけが使うものではなく、例えば、高齢者が昔話をするなど、誰でも使えるということか。

<市長>

来年度の事業計画の中で、webTVのようなものを作って発信していきたいと考えている。図ではいろいろな機械が据えられているが、今、リモートワークはパソコンがあればその場でできるので、大層な機械を置く予定はない。亀岡市が主催するwebTVのようなものを、来年度予算で提案させていただきたい。シティプロモーションが発信できる場にも使いたい。おっしゃるように、誰でも使える形になればよいと考えている。

<木村委員>

開かれたアトリエは、土、日曜日、夜も営業するということであるが、誰が出勤するのか。今後の経費はどうするのか。夜の入り口はどうなるのか。

<市長>

具体的なオープン時間は決めていない。決めた際には、議会にも報告させていただく。市役所庁舎は、24時間警備会社が入っているので、警備会社に委託することになると思う。現状の警備の範囲内でやることになり、大きな予算はかからないと思っているが、Wi-Fi費用や、電気代、電気もLEDに替えて明るくしたいという意見も出ているので、そのような経費はかかると考えている。

<木村委員>

土、日曜日は、管理する人は誰もいないということか。

<市長>

専属の人を配置するという事はない。

<山本委員長>

他になれば休憩する。再開は午後1時40分とする。

12:42

(休憩)

12:42~13:40

(京都スタジアム関連事業経費)

13:40

<市長>

かめおかまるごとスタジアム構想について説明させていただく。今年1月19日、亀岡にスタジアムが完成した。球技専用スタジアムということで、サッカー、ラグビー、

アメリカンフットボール専用ということになるが、ボルダリング、バスケットボールの3×3施設が併設されている。また先日、亀岡市内の中学校4校が文化祭、運動会で活用した。球技専用スタジアムでも、いろいろな使い方を模索していく。今回、まるごとスタジアム構想というのは、亀岡全体をスタジアムと位置付けた場合に、どのようなスポーツを含めた取組ができるかということである。市民の健康増進、また、経済活性化、魅力的なスポーツ交流、スポーツ観光を含めて、スポーツを基軸とした取組によって、人口減少時代の中で亀岡の魅力を高めていくきっかけ作りを考えていきたい。亀岡全体をスタジアムとするなら、保津川を活用したいろいろなアクティビティができるのではないかと。また、サンガのホームグラウンドができたが、サンガ自体も城陽から亀岡にという意向も伺っている。その他のサッカーチームも、亀岡で拠点を作りたいというような話も出ている。また、京都府バレーボール協会から、ビーチバレーボール場を亀岡に作ってほしいという要望が出ている。野球も、全国大会ができるような施設をという要望もある。今、亀岡では、スポーツに関するいろいろな動きが始まっている。今日もオリンピック競技であるBMXの、亀岡出身の日本ランキング2位くらい、世界でも6位か7位くらいの方が私に会いに来てくれた。練習場をという話もある。京都縦貫自動車道が全線開通し、名神とつながったことにより、北部、南部から1時間弱で来ることができるよい距離になった。亀岡の地の利を生かしていくことも、スポーツでできるのではないかと考えている。かめおかまるごとスタジアム構想で、どのような取組で市民が健康になり、スポーツ観光でまちがにぎわい、世界の中で注目されるようになるかをこの構想の中で作り込んでいきたい。当初、生涯スポーツ課に市職員で作るよう指示していた。夏が過ぎる前に、案が出されたが、私が言うような10年後を見据えたスポーツを基軸としたまちづくりには程遠い内容で、これは専門家にアドバイスをもらって作り込んでいかなければ難しいと感じたので、9月補正に上げさせていただいた。今、スポーツに関わる大学の先生や専門家を招聘する準備をしているところであり、亀岡の今後のスポーツの在り方や、スポーツでにぎわいを作っていく取組の基となるまるごとスタジアム構想を作るために協力いただくよう、議会が終われば依頼していきたいと考えている。財政上の問題もあり、全てが行政でできるわけではなく、民間の力も借りながら進めていくことも必要と思っているが、そのためにもスポーツを基軸としたまちづくりを進めるにあたり、まるごとスタジアム構想を作り、それに基づき今後の亀岡の発展のために行政施策として進めていきたいと考えている。亀岡全体を見立てた時に、どのようなスポーツ事業を行政としてやっていくべきかを構想の中に書き込み、それを基軸として今後の市政運営を進めていきたい。

13 : 46

<生涯学習部長>

これまでは議論の中だけであったので、明文化した資料で説明させていただく。まず、構想策定の背景であるが、スタジアムオープン、また、東京オリンピック・パラリンピックにより、スポーツへの関心が高まっている。さらに、コロナ社会における新しい生活様式の定着、普及が社会的に求められている。スポーツ庁も、新しい生活様式にはスポーツの持つ力に大いに期待しているということも出てきている。スポーツツーリズムや、これまでの競技体育だけではなく、アウトドア、アクティビティを含めた地域資源を活用した新たな展開が必要だということで、いろいろな支援策も出ている。スタジアムのみならず、市域全域にいろいろなアクティビティ拠点、事業者、公共施設もできている。これを基に、市民の体力増進、QOLの向上を図るとともに、市民に亀岡の素晴らしさを再認識していただく。ふるさとを自慢できることで、郷土

愛を育てる。今もいろいろな方に来ていただいているが、経済性も考え、ビジネスの視点でいかに亀岡にお金を落とさせていただくかということ、この構想を作る目的の1つに上げている。それが、ここに住んでみようという定住促進につながるのではないかと考えている。主な構想の内容としては、専門的な見地が必要になってくるということで、1つは市内の公共及び民間のスポーツ施設、アクティビティサイトの実態分析が必要である。運営の現状や問題点を聞いているが、一定整理する必要がある。要望も出ているが、10年後の亀岡のスポーツ環境を目指した時に、どのようなスポーツ施設が足りないか。また、アクティビティや事業者の連携の必要性、可能性。保津川小橋のところにキャンプサイトを整備しているが、無料であり土、日曜日になるとかなりの方が来られている。そういったことを知ることで、亀岡のよさを知っていただける。ラフティング、パラグライダー、乗馬等、スポーツ事業者も多くなっている。スタジアムでは、eスポーツ、フットサル、スケートボードもできてくる。いろいろな自然を生かしたスポーツの可能性として、亀岡には十分な資源がある。これをいかに活用していくかということは、大きなポイントである。基本戦略の樹立ということであるが、スポーツやアクティビティをめぐる今後の流行や、こういった方をターゲットに売り出していくかというマーケットの分析、コロナ禍における新たな生活様式におけるスポーツの有効活用、自然の中で心身をリフレッシュしていくということが大きな亀岡の要素ではないかと思う。亀岡にふさわしいターゲットの設定や、情報発信の手法、新しいスポーツ施設やアクティビティサイトの育成、誘致の手法、また、行政だけではなく、民間企業、商工業者、農業と連携する中で、新しい道筋ができてくるのではないかと考えている。具体的な施策の展開の方向については、後ほど説明する。今、スポーツコミッションと言われているが、それをコントロールする組織も必要だということも踏まえて、10年後の亀岡のあるべき姿を構想として描いていこうということが今回のスタジアム構想である。2枚目であるが、策定委員会と策定フローである。今説明した内容を、スポーツビジネス研究者らに集まっていたいで委員会を設置し、議会で可決いただいたら、秋口から委員会を開催していきたいと思っている。年度内に全てを完成させることは厳しい。令和2年度は構想策定会議を開いて構想原案のたたき台を作りたい。令和3年度は、いろいろな競技団体へのヒアリングも含めて、市民意見を反映した構想として仕上げていき、パブリックコメントをして構想を発表したい。第5次亀岡市総合計画の下にある計画であるので、構想策定はその年度に合わせて令和3年度から令和12年度までの10カ年の計画として作っていきたいと考えている。3枚目は、亀岡市域の中でできるアクティビティの一部である。これ以外にもたくさんある。サイクリングは、川東地域、国道372号、大阪、京都方面からかなりの方が来られている。そういった方に何が必要かということも含めて、情報発信することにより、亀岡のよさを引き出していけると考えている。亀岡の自然を生かし、亀岡がスポーツフィールドであることをこの計画で示していきたい。質問項目については、課長から説明させていただく。

13:54

<生涯スポーツ課長>

- ①趣旨はということであるが、先ほどの説明にもあったが、京阪神からのアクセスがよく、豊かな自然環境に恵まれており、この立地を生かして様々なアウトドアスポーツが行われていることから、市内の体育館などの施設だけではなく、保津川やハイキングコースなど、豊かな自然環境を活用したスポーツやアクティビティに親しめる亀岡市域全域をスタジアムと見立てて、市民の健康増進、体力増強、スポーツやアクティビティを活用したにぎわいの創出による地域活性化等に資するために策定するもの

である。

- ′ ②内容については、部長説明のとおりであるが、市内のスポーツ施設やアクティビティサイトの実態分析、新たなスポーツ施設やアクティビティサイトの育成、誘致の必要性と可能性、基本戦略の樹立、具体的施策展開の方向や推進体制である。
- ′ ③スケジュールについては、2枚目の資料のとおり、議会で可決いただいた場合は、10月に有識者等による構想策定委員会を開催し、令和2年度に4回程度会議を行い、構想原案をまとめていきたい。令和3年度にヒアリング調査、パブリックコメントを経て、構想を策定する予定である。
- ′ ④何冊作るのかについては、200冊程度を考えており、来年度の予算で作成することになるが、議員、自治会、関係機関に配布していきたいと思っている。
- ′ ⑤何のための指標になるのかについては、亀岡の豊かな自然の中でスポーツやアクティビティを市民が体験することにより、市民の健康増進や体力増強、スポーツをすることによる生活の質の向上を図るとともに、ふるさとの素晴らしさを認識していただき、郷土愛を育てることや、ビジネス資源として発信し、産業と連携することにより、市外から多くの人々を呼び込み、体験型観光の振興や地域経済の活性化等の指標になると考えている。
- ′ ⑥もっと安くできるのではないかと、委託しなくても内部でできるのではということについては、交流人口の増加や新しい生活様式の形成、スポーツビジネスの視点を取り入れる等、職員だけでは難しいところがあり、有識者による構想策定委員会を設置して策定していくということで、基礎データの収集分析や構想原案の整理作業等、専門的な知見が必要になってくることから、コンサルタント業者への委託が必要である。できる限り少ない費用となるよう努めていきたいと考えている。
- ′ ⑦なぜ当初予算でなく補正予算なのかについては、当初、当課で作ろうとしていたが、知見が足りないというところもあり、コロナ社会で新しい生活様式を求められている中、新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金を活用し、今議会に計上している。
- ′ ⑧委託料400万円の内訳は、基礎データ取集分析、会議録作成、構想原案整理作業、コンサルタントになるが250万円。委員報酬、旅費が65万円。会場費が10万円。需用費が20万円。その他55万円を考えている。
- ′ ⑨コロナ対策としての事業効果は、市民のためになるのかについては、様々なアクティビティやハイキング、サイクリングなどに目を向けていただき、スポーツを楽しむや健康増進への関心を高めるなど、新たな生活様式への提案につながるものと考ええる。また、地域経済の活性化にも寄与することから、市民のためになるものと考えている。

14:00

〈質疑〉

〈福井委員〉

今年度の400万円で冊子まで作ると思っていたので、スケジュールを説明いただき、私の認識が間違っていたことに驚いている。第5次亀岡市総合計画に関わることはわかるが、令和2年度で完結すると思っていた。400万円の内訳で委員報酬と言われたが、委員とは誰か。

〈生涯学習部長〉

これまでのように大きな団体から出してもらうのではなく、専門的な形で、大学の先生やビバ、サンガ、スポーツコミッションという関西の組織があるが、その事務局やスポーツマネジメントをされている方、市職員、合計8名程度で考えている。

〈木曾委員〉

概要を出していただき、スケジュールやこの構想で何をしようとしているのかがようやくわかった。400万円が何に必要かわからなかった。自分たちで考えてもできないので丸投げしたのかと聞けば、それに近いような答えであったのでそう思っていた。どのような人に構想策定委員会委員になってもらうのか、今までのような自治会連合会長や商工会議所会頭などありふれたメンバーはやめて、本当に構想に必要な人に入ってもらわないと、中身がわからないのではないかと意見を言い、それを踏まえて今、言っていたと思う。令和2年度に4回会議を行って大方まとめるのに400万円かかるということだが、コンサルに委託するのが250万円ということで、スポーツに対してプロフェッショナルなコンサルなのか。

<市長>

専門的なコンサルに依頼し、委員から出たものを上手くまとめて、亀岡のものと合わせて新たなものをたたき台として作っていただく。その前に、コンサルには亀岡の現状の調査もしてもらうので、専門的な知識を持ったコンサルに依頼したいと思っている。

<木曾委員>

かめおかまるごとスタジアム構想は、スタジアムを核として、スタジアムだけでなくいろいろなところにいろいろな仕掛けをしてやっていくということだが、かめおかスポーツまるごと構想でもよかったのではないか。なぜスタジアムが付くのか。

<市長>

亀岡にスタジアムができたということも1つのきっかけであるが、スタジアムは、学校の文化祭、音楽発表を含めて、多様なことができる可能性があると思っている。今回、亀岡市域全体をスタジアムと考えた時にどのようなスポーツができるかということ、構想の中でまとめる。それが、結果として亀岡の魅力を高め、市民の健康増進につながるという思いで、かめおかまるごとスタジアム構想と位置付けた。単体のスタジアムを言っているのではなく、その機能を亀岡全体でどのように使っていくかを考えている。

<木曾委員>

スタジアムは京都府の施設であり、使い方は京都府が考えられることだ。亀岡市としては、スタジアムと連動しながら、市の施設である亀岡運動公園全体を核とした大きな構想を練るということか。

<市長>

亀岡市全域でどのようなスポーツができるか、その構想をどのように作るかということである。保津川を使ったアクティビティはどのようなことができるか、京都府から預かる川の駅でどのようなことができるかも示していきたいと思っている。川東地域、西部地域、大井など、各地域の地の利、地形なども考え、亀岡全体としてどのように生かすことができるかを考えていく構想である。亀岡運動公園だけを見ているわけではない。亀岡を1周り走るトレイルランニングの大会を開くようなことも、委員から出るかもしれない。亀岡全域を活用して、どのようなスポーツの取組ができるか。結果としてまちのにぎわい、市民の健康につながっていく。市民の中から次なるオリンピックアスリートを生み出すことにつながっていく。そういうことを、この構想の中で位置づけていきたいと考えている。

<木曾委員>

市民の健康増進、観光資源としてにぎわいを創出すること、アスリートの育成の3つだと思うが、陸上競技場も公認の競技場になっていない。改修には相当の金額が必要になると思う。あまり大きな部分でやると、多大な経費が必要になる。にぎわいか、

市民の健康増進か、それともアスリートの育成かが定まらず、焦点がぼけてしまうと心配する。構想策定の中で十分協議されると思うが、市長の思いがかなり入ってくると思う。そうでなければ意味がない。何を目的に、どのようにやっていくのか。税金を投入することである。これまでは、市民の健康増進を第一の目的として、いろいろな施設を活用して事業を行ってきた。それだけではないと目的を広げていくことになる、今の状況では難しいのではないか。

<市長>

もちろん市民が利用できる施設であることが大前提であるが、今年、女子サッカーの国際大会を亀岡でやりたいという話があった。コロナで大会は中止となったが、それを誘致しようと思うと、今の陸上競技場を改修しなければならないという問題がある。この構想の中で、亀岡市が今後そういうものも誘致していくということになれば、そのための施設整備ができると思っている。お金には限りがあり、何もかも全てできるわけではないので、構想の中で位置づけて、より市民が使うことができ、競技団体にもプラスになり、世界から来ていただけるようなものを目指していくのか、それとも市民だけでやればよいのかということも含めて、亀岡の立地条件や環境条件を考えた時、何に投資をしていく必要があるかをこの構想の中で位置づけて、それに位置づけられれば整備を含めて進めていきたいと考えている。構想については、議会にも議論いただくことになると思っているので、市民目線での取組もしっかりと入れていきたい。

<木曾委員>

構想の中で公共施設をこれ以上作って、本当に維持管理していけるのかが心配である。民間施設を誘致するという構想なのか。財政投資を含めて、後年度の公共施設管理の状況に関わってくるがどうか。

<市長>

亀岡にとってどのようなスポーツ、アクティビティが有効かということをご提案していただこうと思っている。その中で具体的に何を整備していかなければならないかは今後の話である。それについては、民間投資も促していかなければならないし、行政としてやらなければならない部分も出てくる。そういうこともこの構想の中で判断し、最終的に予算が必要となるものは、議会の理解をいただければ執行していくことになる。それは議会の判断にお任せすることになるが、今、亀岡が置かれている人口減少、少子高齢化の現状の中で、スポーツを基軸にして、健康、環境、スポーツ競技、アスリート育成を行うことが、10年後の亀岡にどのような影響をもたらすかということを検証していきたいと考えている。

<生涯学習部長>

先ほど、委託料の内訳を課長から説明したが、予算書では委託料で400万円上がっている。コロナ対策交付金として、国から10分の10いただくことになっている。その中では、会場費や委員報酬は認められにくいので、市の基準に基づき、委託料の中から支払いをすることになる。

<福井委員>

令和3年度に200冊作る時、冊子はどれくらいの厚さになるのか。

<市長>

京都大学の先生方をお願いしてかめおかまるごとガーデンミュージアム構想を作っていただいた。それも200冊作ったが、1センチメートル弱くらいである。現状分析や亀岡の課題、今後亀岡でこのようなことができるのではないかとということを含めた構想を作っていただくことにしている。

<福井委員>

20～30ページのものか。もっと厚くなるのか。イメージが湧かない。

<市長>

令和3年度当初予算に上程させていただくが、最終作り込んだり、PRする費用を含めて50～70万円くらいの予算をお願いすることになると思っている。

<木曾委員>

なぜ当初でなく、補正になったのか。構想であれば、本来は当初予算に出していただき、1年間かけて構想を練るものだ。9月に認めたとしても、わずかな期間でやっていかなければならない。会議は詰めてやると思うが、もう少し余裕を持ってやる方がよかったのではないか。他にも急に補正予算で出てくるパターンが多いように思う。なぜ当初予算で出ないのかということが素朴な疑問である。

<市長>

本年度にこの構想を作る予定として、当初予算の全体枠の中に事務費を入れていたが、民間のコンサルに高いお金で委託するのではなく、職員で作るように指示していた。それが7月終わりくらいに出てきて、それを見た時に、これはだめだと思った。専門的な意見を反映させないと、亀岡の持つポテンシャルを生かす構想はできないと思ったので、急ぎ9月議会に補正予算を上程させていただいた。

<木曾委員>

我々には、市職員がどのようなものを作ったかはわからない。市長はだめだと思われたようだが、少しでもよいところは構想の中に入れられるかもしれない。トップダウンでされるのはよいことではあるが、一度は市職員がまとめた構想を公表し、だめだという意見が多ければ専門家に依頼するのが筋ではないか。

<市長>

残念ながら、構想に達するほどのものではなかったというのが現状である。

<松山副委員長>

山間部の住民が施設に行く時のアクセス整備、千代川乗船場の右岸道路の整備など、アクセス整備のいろいろな課題が出てくると思うが、それも含めてコンサルに委託するのか。

<市長>

交通体系までは構想に入れることができない。市として構想に基づいて整備する中で、どのような整備が必要かを所管部で協議し、予算化をお願いしていくことになる。

<松山副委員長>

分布図を見ると、森のステーションかめおかは構想の中で特定されている施設である。市としても、神前財産区の土地のことは整理しておかなければならないのではないか。今後、そこで何か起こった時、かめおかまるごとスタジアム構想の中に入っているということになるのではないか。

<市長>

所有土地に関する条件については、現実に借地としている経過がある。薬草源等を地元の皆さんに使っていただくということの中で、借地料を削減してきた。具体的にそこをどのように使うかということが構想の中で決まれば、その整備の中でそのような問題もクローズアップさせて取り組んでいく必要があると思っているが、構想の段階で土地の所在や今後の管理運営等まで細かく位置づけるのは難しいと考えている。

<福井委員>

構想をシティプロモーションとしては捉えていないのか。

<市長>

もちろんシティプロモーションの1つだと思っているので、鳥山シティプロモーション担当室長も、行政を代表して策定メンバーに入っていただく予定である。
(質疑終了)

(休憩)

14:28~14:40

《委員間討議》

＜福井委員＞

かめおかまるごとスタジアム構想について私の認識が正しくないようなので、皆さんの意見を聞きたい。

＜木曾委員＞

かめおか霧の芸術祭についても、皆さんの意見をまとめた方がよいと思う。地下レストランでやることについて、まだ私はすっきりしない。話を聞いていると、入っている業者のためにやるように思える。利用者が50数人で採算が合わないと言っていた。自由討議をすればどうか。

＜山本委員長＞

文化振興経費と京都スタジアム関連事業経費の2点を委員間討議してよいか。まず、文化振興経費について、意見はあるか。

＜木曾委員＞

地下レストランにこだわる理由がよくわからない。提示された図面のものが全部入れれば、ごちゃごちゃになって、人が寄り付かなくなってしまうのではないか。業者に売り上げを増やしてもらうことも必要というようなことも言っていた。設計を京都芸術大学に頼んだら、年度末までに事業ができるようなことも言っていた。普通の業者に頼むと年度末までにはできない。国の交付金がきた時点で、京都芸術大学にその内容が伝えられていて、段取りされているような節がある。皆さんのご意見を聞きたい。

＜山本委員長＞

木曾委員から、開かれたアトリエの場所に地下レストランが選ばれた根拠がわからないというご意見が出た。皆さんのご意見を願います。

＜三上委員＞

設計監修も契約であり、随意契約になる。昨年末に方向を決め、SDGs未来都市申請資料にも、この開かれたアトリエが入っている。市庁舎を使うとは書いてないが、既定路線になっていたのではないか。それを明らかにさせてもよかったと思う。先ほど言ったとおり、市長の言葉をそのまま返して、市役所には市役所の役割があるのでふさわしくないと思う。この路線ありきで、私がガレリアかめおかを提案しても図書のスペースができない、店舗ができないと言っていたが、最初からあるのでそこでやればよいことだ。経費も節減できるのでもったいないと思った。霧の芸術祭を否定していないし、面白いことをやっていると思う。上手くやれば、循環型の住民参画のいろいろなことができるのかもしれない。モデルにしてもらわないと、全体の自治体SDGsはできないので、人がたくさん集い、人の目に留まるところにそういうものがあつた方がよいと思う。

＜福井委員＞

私は、先日の委員会でガレリアかめおかでやればどうかと言った。ガレリアかめおかの方がよいと思った。図面を出してきて、これだけ詰め込むと言っているが、詰め込まないかもしれない。10月、11月にワークショップをしていて、3月にできるのかという心配はあるが、地下のスペースを当初の目的のアトリエとして運営できると

すれば、認めていく方向はある。業者との関係は整理しておいてもらった方がよかったが、挑戦するという点については、私は一定納得したと思っている。

<石野委員>

コロナで客が減っているのだから、売り上げも増やしていかなければならないのだろう。情報発信拠点をどこかに作らなければならないので、市長はここがよいと言われている。野菜を売るのであれば外でできるので、ここに集約しなくてもよいと思うが、拠点としてはコンパクトに収まってできると思う。

<浅田委員>

時間がないので、まずはここを拠点としてやっていき、今後、ここが成功するような展開に持って行けるのであれば、ここを拠点に広げていくという方法もあると思う。

<木村委員>

予算を見ると、アトリエ設計600万円も普及啓発1,480万円も、霧の芸術祭にお金を渡すようになっている。コンサルや霧の芸術祭にお金を渡すのもよいが、一緒に職員を育ててもらわなければ意味がないと思う。意見を言っても、これでやると言いとおす。最後は承認してもらえと思っているのだろう。職員ができないからどこかに振るということに危機感を感じる。出された図面に、取ってつけたような写真が貼ってあるが、本当にこれだけのものがあのスペースでできるのか。ミニチュアハウスのようにしてしまうのではないかと思う。議会として何かできればよいと思うが、これ以上は考えつかない。

<福井委員>

地下レストランを使ってどのようなものを作るのか、イメージ図を出すようにと言ったから、この図面が出てきた。それなりのイメージは出た。何をするのかはわかった。写真がどうかということは問題ではない。やりたいことはわかったので、そこは木村委員と意見が違ふ。

<松山副委員長>

開かれたアトリエの基本構想図のマルシェは、KIRIマルシェをするのだろう。エコはプラごみゼロ。やおやおや、コワーキングスペースはKIRI CAFEである。いつでもWeb配信は霧の芸術祭でやっている内容だ。こどもフリースペース、亀岡プロダクトも、KIRI CAFEで子どもたちに竹とんぼを作らせるなど、霧の芸術祭でやっていることだ。霧の芸術祭で頑張っている方もいるが、地域の課題を解決するのに、土砂崩れもアートだと言っているような方がおられる中で、その人たちの活動拠点整備である。これはKIRI CAFE 2号店と同じである。霧の芸術祭の関係者が、市を通じて補助金を取らせる。この流れしかこの先見えない。市の単費ではやらないと言っているが、引き続き国の補助金を取らせるための事業だ。次にオリンピック、万博がある。それに向けての地方創生という枠組みの中でやっていく事業としか見えない。市民により使っていただくための市役所であるべきだ。KIRI CAFEはとてもよい場所だが、空気感がとても重い。そう感じたのは、私だけでない。周りのコミュニティだけが固まってできているような空間である。目には見えないので、わかりにくいけど、市民は市役所の対応でも空気感を感じておられる。それも加味して考えるべきだ。開かれたアトリエは、未来の亀岡市を担う市民と触れ合う場所だと思う。土砂崩れもアートだと言っている人が、市民と触れ合う場所を作ってしまうのはいかなものかと思う。

<木曾委員>

私もそのように感じている。これからの在り方を考える時に非常に大事なことだ。予算の中で、開かれたアトリエの整備工事、Wi-Fi整備は、総務部で説明された。

文化振興費は2,600万円だが、トータルするともっと必要ということだ。交付金以外は、ふるさと納税が充てられる。今後、このような使い方が本当によいのか。誰のために、何のためにするのかを、もっと明確にする方がよいと思う。ガレリアかめおかの方がよいのではないかということに対して、市長はあれだけの答弁しかできなかった。苦しい答弁だったと思う。いろいろと検討したがという話であればわかるが、明らかに、どう見てもガレリアかめおかの方がよいに決まっているので、なぜここになるのか。結局は、売り上げの話になってくるのかと思う。

<三上委員>

霧の芸術祭はモデル事業であり、モデル事業のための交付金であるから認めざるを得ない。他のことに使えとは言えない。内訳も、ハード面で2,000万円。補助率は2分の1である。ソフト面で2,000万円。あわせて3,000万円の交付金である。足りない1,000万円がふるさと納税である。市庁舎に対する市民の思いが、これで満たされるのか。高齢者が入りづらいのではないかという話もあったが、今でさえ市役所は行きにくいという声を聞いている。窓口業務は会計年度任用職員が担っており、マニュアルどおりに言われて追い返される、冷たいと聞く。やっとの思いで相談に来た人が、安心して相談できる場所など、市民ニーズに応える庁舎の使い方はどうなるのか。今のレストランがあれでよいとは思っていない。もっと有効活用すればよいと思うが、これを持ってくるのが本当に市民のためになるのかは疑問だ。

<福井委員>

KIRI CAFEの、霧の芸術祭の関係者が集まっているところには、なかなか入りにくい。それがここに来たら大変だという話を、先ほどもしたつもりだ。それに対して市長の答えは、9時まで開けて、市民団体にも使ってもらえるようにすると言った。コンベンション機能をいかに持たせるかということだと思う。霧の芸術祭の第2拠点というような考えを半分も持っていればだめだ。それを取り払って、開かれたアトリエとして開いてもらわなければならない。地域の行事などに使ってもらえるのであれば、国からの交付金の件もあるのでやってみればよいのではないか。ただし、今、松山副委員長、三上委員が言われたことは絶対に条件として付けるべきだと思っている。

<山本委員長>

他になければ、京都スタジアム関連事業経費、かめおかまるごとスタジアム構想について、意見をお願いします。

<福井委員>

市長の公約の中で、構想として作れていない1つであると思う。あいまいな構想であれば、形になったものができれば評価できると思っている。ただ、400万円で冊子までできると思っていた。200冊を誰に配るのかもよくわからない。

<三上委員>

市長自らまるごとガーデンミュージアム構想で200冊作ったものと同じ感じだと言われた。まるごとガーデンミュージアム構想は、皆さんはどのように評価されているのか。木を植えましょう、後は市民が世話をしてくださいというような内容だ。加塚交差点にできたものに対して、造園業の人が、あのようなものに何百万円もかけてふざけている、お金をかけずにもっとよいものが作れると言われていた。構想に対して、よい評判は聞かない。同じとは言わないが、職員に構想を作ることができるはずがない。あれもこれもまるごとの構想を作れと言われても職員が気の毒である。亀岡市が全国的に有名になることも大事であるが、そのことと市民1人1人の幸せとの関連がなければ意味がない。今の亀岡は、観光開発会社のようになっている。何でも大

きく見せて、俳句大賞授賞式もそうである。やればやるほど市民がついていけなくなるような気がする。今度のことも、本当に市民福祉の増進に寄与するものになるのか疑問だ。コロナ対策でやる事業ではないと思う。

<木曾委員>

市職員の提案に対して、取るに足らない内容だったという市長の発言はいかがなものかと思う。SDGs、人の人権と言いながら、職員が一体となって第5次亀岡市総合計画の構想を練っていかねばならない大事な時に、あのようなことを言われた職員はショックを受けて、一体となってやろうという気にはなれないのではないかと。衝撃を受けた。採決前に会派会議をしたい。

<山本委員長>

暫時休憩する。

(休憩)

15:10~16:00

《討論》

<三上委員>

第1号議案の補正予算に反対の立場で討論する。コロナ対策で使うべきお金として出てきたが、いろいろな課題がある。まるごと構想の問題点は常々指摘している。今回の予算立てには疑問を感じる。霧の芸術祭については、自治体がSDGs未来都市を受けたからには、まず、SDGsそのものを市民に周知啓発するなかで、例えばというモデル事業としてそれがある。市の中核の事業ではない。市庁舎を拠点にということは違う。市庁舎の在り方という点からも、市庁舎を開かれたアトリエにするという構想については反対したいと思う。補正予算であるので他にも市民のために重要なものが入っているのは承知しており、即刻否決して組み替えてもらって、必要なものを通年議会であるので認められるものを認めていきたいと思っている。詳しくは本会議で述べる。

(討論終了)

16:02

《採決》

<山本委員長>

賛成者は挙手願う。

第1号議案（一般会計補正予算（第5号）） **挙手多数 可決**（反対：三上委員）

《指摘要望事項》

<木曾委員>

霧の芸術祭の開かれたアトリエは、市民が集えるような場所にしていかねばならないと思うので、そういったことを盛り込んでいただきたい。かめおかまるごとスタジアム構想については、いろいろな意見があったが、市職員から提案されたものもあった。それも参考にしながら、専門的な知見でも考えて、構想を練り上げていくということにしていきたい。市長と市職員が一体となる形の中での事業推進を願いたい。そういうことを盛り込んでいただきたい。

<浅田委員>

市民に開かれたアトリエにするよう指摘要望していただきたい。また、職員から出ていた意見も確実に取り入れるよう指摘要望に入れていただきたい。

<福井委員>

指摘要望というよりも委員長報告に盛り込んでいただきたいのだが、議案の出し方について、特に今回のように急に国から交付が決まったような補正予算について、通常以上に絶対に通してもらわなければならないという熱意を持って上程するように言ってほしい。

<山本委員長>

まず、指摘要望事項として2人から同じ内容が出た。霧の芸術祭については、市民に開かれたアトリエになるようにということと、まるごとスタジアム構想については、市職員から提出されたことも確実に取り入れて、知見のある方のものとともに作成していただきたいということによいか。

<福井委員>

開かれたアトリエは、コンベンション機能をしっかり持って運営するようにとってもらいたい。いつでも誰でも入れることはねらいではあるが、霧の芸術祭の仕事ばかりやっているようなことは避けてほしい。開かれたアトリエであるがゆえに開かれないうことにならないように、所管をはっきりさせて管理運営をしっかりしてほしい。

<山本委員長>

市民に開かれたアトリエとして、しっかりと管理するようにといいことによいか。指摘要望はその2点とする。委員長報告に盛り込む内容について、福井委員が言われた議案の出し方について、特に補正予算について、国から急に交付が決まったものについては特に熱意を持って、しっかりと資料もそろえて上程してくるようにといいことを1点付けてよいか。

<三上委員>

国の交付金に関係なく、補正予算はどうしても必要であるから付け足したいというものである。単費でも同じことだ。また、熱意を持ってというのは具体性に欠けるので、納得できるような資料を用意するとか、説明責任を果たせるような資料を用意するとか、そのような言葉に変えてもらった方がよいと思う。

<山本委員長>

三上委員が言われたことも委員長報告に入れさせていただく。委員長報告の作成は、正副委員長に一任願う。委員長報告については、9月29日（火）の委員会で確認いただくのでよろしく願います。

16:10

6 その他

(1) 議会だよりの掲載事項について

<山本委員長>

最終日に追加議案が提出されるが、補正予算の内容で2件決めておきたい。

<木曾委員>

今日の2件が市長まで来ていただいて審議した内容であるので、霧の芸術祭とまるごとスタジアム構想の2件を掲載してもらえばよいと思う。

<福井委員>

皆様のご意見によるが、まるごとスタジアム構想は、令和2年度にでき上がらないということなので、広報的には土砂災害応急復旧等支援事業の創設でもよいのではないかと。

<山本委員長>

3件出していただいたが、この中から2件抽出したいと思う。

<木村委員>

2件ということであれば、霧の芸術祭とまるごとスタジアム構想である。

<石野委員>

霧の芸術祭と土砂災害応急復旧等支援事業がよいと思う。

<浅田委員>

霧の芸術祭と土砂災害応急復旧等支援事業がよいと思う。

<松山副委員長>

霧の芸術祭とまるごとスタジアム構想がよいと思う。

<三上委員>

市長との生々しいやり取りを伝えたいが、3分の1ページでは無理である。議会が納得いくまで頑張って審議しているということは、どこかで伝えたいと思っており、今回は2面で取り上げようと思っている。環境厚生常任委員会も産業建設常任委員会も日程をずらして、出し直しをさせたりしてやっている。納得できるまで資料を出させてやっていることをアピールしたい。まるごとスタジアム構想は、説明も難しい。何が決まったのかということになるので、そういう意味では、霧の芸術祭と土砂災害応急復旧等支援事業がよいと思う。

<山本委員長>

2ページで触れていただけるとのことなので、霧の芸術祭と土砂災害応急復旧等支援事業の2件でよいか。

— 全員了 —

(2) 次回の日程について

<山本委員長>

次回は9月29日(火)本会議終了後に再開し、追加議案の審議、採決を行うのでよろしく願います。

散会 ～16:15